

大館版 C C R C 整備構想

平成 29 年 3 月

大館市

目 次

1. 大館版CCRC整備構想策定の目的	1
(1) 国の「生涯活躍のまち（日本版CCRC）」構想の基本的考え方	1
(2) 大館市におけるCCRC構想策定の目的	2
2. 大館版CCRCのコンセプト、目指す将来像	4
(1) 大館版CCRCのコンセプト	4
(2) 大館版CCRCで目指す姿	8
① 国の「生涯活躍のまち」構想に求められる要件への適用として	8
② 大館版CCRCの展開イメージ	10
3. 大館版CCRC実現への課題と取り組み方策	12
(1) 市民の「健康長寿・生涯活躍」に向け、全市的な取り組み推進	12
(2) 重点エリアにおける事業推進・協働体制の構築	12
(3) 民間事業主体の確保、育成	13
4. 大館版CCRC整備構想策定に向けたこれまでの動き	13

1. 大館版CCRC整備構想策定の目的

(1) 国の「生涯活躍のまち（日本版CCRC）」構想の基本的考え方

我が国における人口減少と地域経済縮小の克服に向けて、国では平成26年12月に「まち・ひと・しごと創生総合戦略」、いわゆる地方創生総合戦略を策定し、①東京一極集中の是正、②若い世代の就労・結婚・子育ての希望の実現、③地域の特性に即した地域課題の解決のため、まち・ひと・しごとの創生と好循環の確立に取り組むこととしました。

総合戦略では、地方における様々な政策による効果を集約し、人口減少の歯止めや「東京一極集中」の是正を着実に進めるため、次の4つの「基本目標」を設定しています。

- <基本目標①> 地方における安定した雇用を創出する
- <基本目標②> 地方への新しいひとの流れをつくる
- <基本目標③> 若い世代の結婚・出産・子育ての希望をかなえる
- <基本目標④> 時代に合った地域をつくり、安心な暮らしを守るとともに、地域と地域を連携する

このうちの「<基本目標②>地方への新しいひとの流れをつくる」において「地方移住の推進」が掲げられ、「主な施策」として「生涯活躍のまち（日本版CCRC）」構想が打ち出されています。

「生涯活躍のまち」構想は、『東京圏をはじめとする地域の高齢者が、希望に応じ地方や「まちなか」に移り住み、地域住民や多世代と交流しながら健康でアクティブな生活を送り、必要に応じて医療・介護を受けることができるような地域づくり』を目指すものです。

本構想の意義としては、①高齢者の希望の実現、②地方へのひとの流れの推進、③東京圏の高齢化問題への対応、の3つの点があげられています。

◎ 地方創生の観点から、中高年齢者が希望に応じて地方や「まちなか」に移り住み、地域の住民（多世代）と交流しながら、健康でアクティブな生活を送り、必要に応じて医療・介護を受けることができる地域づくりを目指す。

1. 中高年齢者の希望に応じた住み替えの支援

- ・大都市からの移住にとどまらず、地方居住の中高年齢者が近隣から「まちなか」に住み替えるケースも想定。
- ・入居者は、中高年齢期の早めの住み替えや地域での活躍を念頭に置き、50代以上を中心。
- ・移住希望者に対し、きめ細やかな支援（事前相談、お試し居住など）を展開。

2. 「健康でアクティブな生活」の実現

- ・健康時からの入居を基本とし、健康づくりや就労・生涯学習など社会活動への参加等により、健康でアクティブな生活を目指す。

3. 地域住民（多世代）との協働

- ・地域社会に溶け込み、入居者間の交流のみならず、地域の若者等多世代との協働ができる環境を実現。大学等との連携も。

4. 「継続的なケア」の確保

- ・医療介護が必要となった時に、終末期まで尊厳ある生活が送れる「継続的なケア」の体制を確保。

5. 地域包括ケアとの連携

- ・受入れ自治体において、地域包括ケアとの連携の観点から、入居者と地元住民へのサービスが一体的に提供される環境を整備（既存福祉拠点の活用、コーディネーター兼任等）することが望まれる。空き家など地域のソフト・ハード資源を積極的に活用することも。

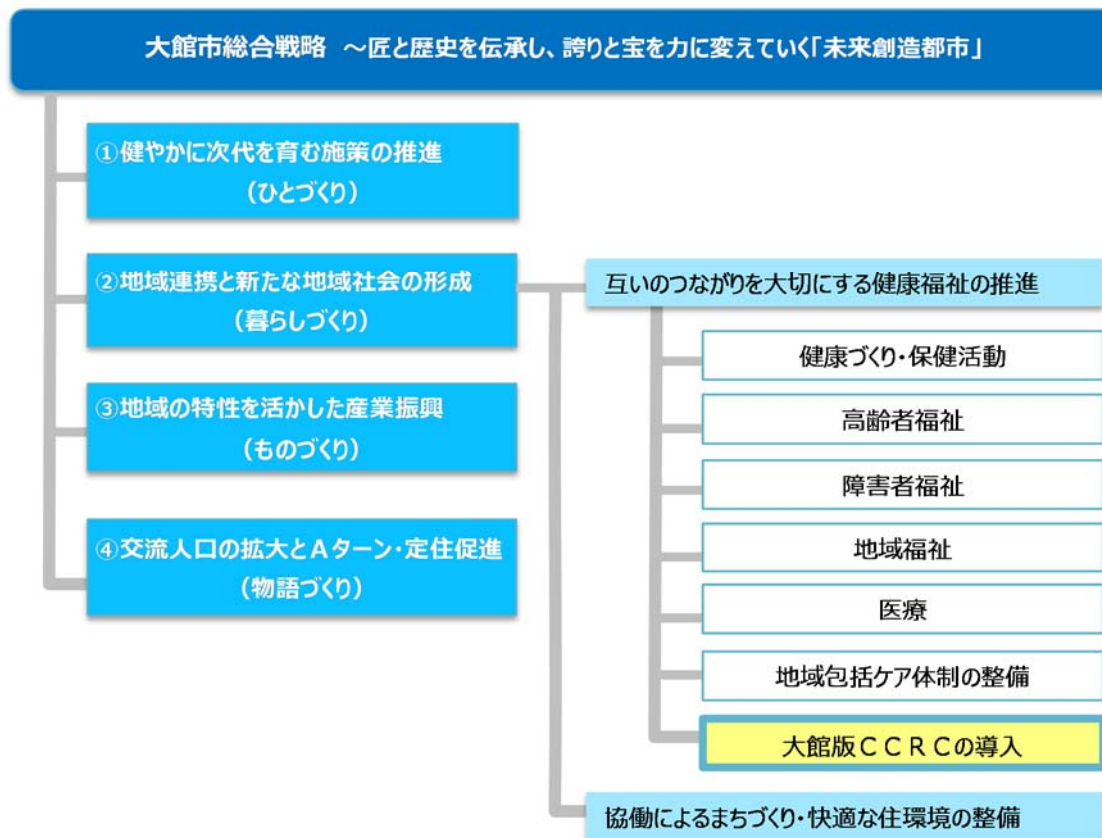
従来の高齢者施設等	居住の契機	「生涯活躍のまち」構想
主として要介護状態になってから選択		健康時から選択
高齢者はサービスの受け手	高齢者の生活	仕事・社会活動・生涯学習などに積極的に参加（支え手としての役割）
住宅内で完結し、地域との交流が少ない	地域との関係	地域に溶け込んで、多世代と協働

出典：内閣官房まち・ひと・しごと創生本部事務局

(2) 大館市におけるCCRC構想策定の目的

全国的に人口減少・高齢化が進展する中、大館市では生産年齢人口の流出、労働力不足等により地域活力の低下が課題となっています。

そこで、大館市では喫緊の課題である人口減少問題を克服し、地方創生の実現に向けた戦略的施策を「大館市総合戦略」に取りまとめました。



このうち、「基本目標② 支援連携と新たな地域社会の形成」についての大館市の現状と課題、総合戦略での取り組みの基本方向は以下のとおりです。

現状と課題

- ・核家族や高齢者のみの世帯、高齢者のひとり暮らし世帯が増加し、健康不安を抱える人や日常生活に支障を来す人が増えています。
- ・人口減少・少子高齢化の進行に伴い、地域を維持し安心して暮らせるための地域コミュニティなどの強化が必要です。
- ・国内では大規模な自然災害が多発している中で、本市においても豪雨や豪雪による被害が発生しており、安全に暮らせるインフラや住環境の整備が必要となっています。

基本方向

- ・保健・医療・福祉が連携して市民の健康寿命の延伸を図ることで健やかな心と体を育むとともに、地域で暮らすうえで支援の必要な高齢者や障害のある人が安心して暮らすことのできる支援体制や環境整備を進めます。
- ・防災、防犯、克雪対策など、安全・安心な市民生活を支えるさまざまな取り組みを推進します。
- ・世代を問わず多くの市民が快適に暮らせるよう、住環境をはじめ、生活環境、交通機関等の整備を図ります。

これを踏まえ、「基本目標② 地域連携と新たな地域社会の形成」における「互いのつながりを大切にする健康福祉の推進」の5年後の目指す姿として、

- ・ 住み慣れた地域で、自分らしい暮らしを続けられる社会
- ・ 健康でアクティブな生活を送り、必要な時に医療・介護ケアを受けられる共存する地域社会

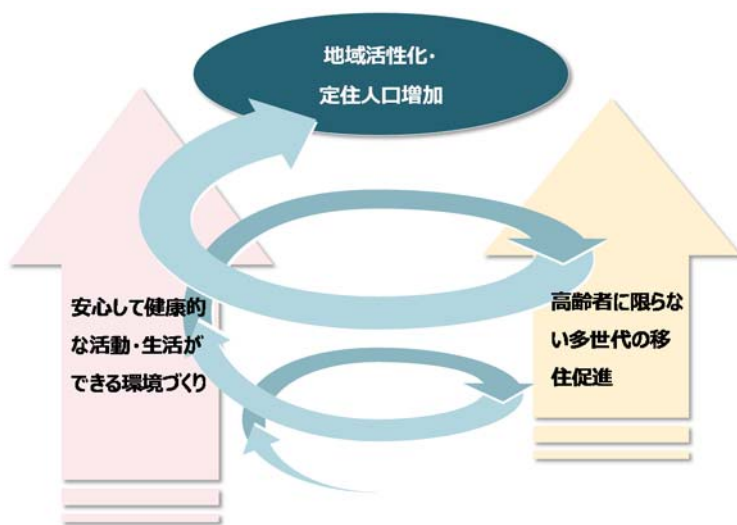
を掲げ、「多世代が共存する地域社会において健康でアクティブな生活を送るとともに、医療・介護が必要な時には継続的なケアを受けることができるような「大館版CCRCの導入」を位置づけています。

目的

地域活性化、定住人口増加への手段の一つとして、高齢者に限らない多世代の移住促進を主な目的に、安心して健康的な活動・生活ができるような「大館版CCRC整備構想」を策定するものです。

2. 大館版CCRCのコンセプト、目指す将来像

(1) 大館版CCRCのコンセプト



大館市は「安心して健康的な活動・生活ができる環境」という点からみると、秋田県北部の拠点都市として、市民の日常生活や経済活動に係る都市機能、サービスが集積しています。

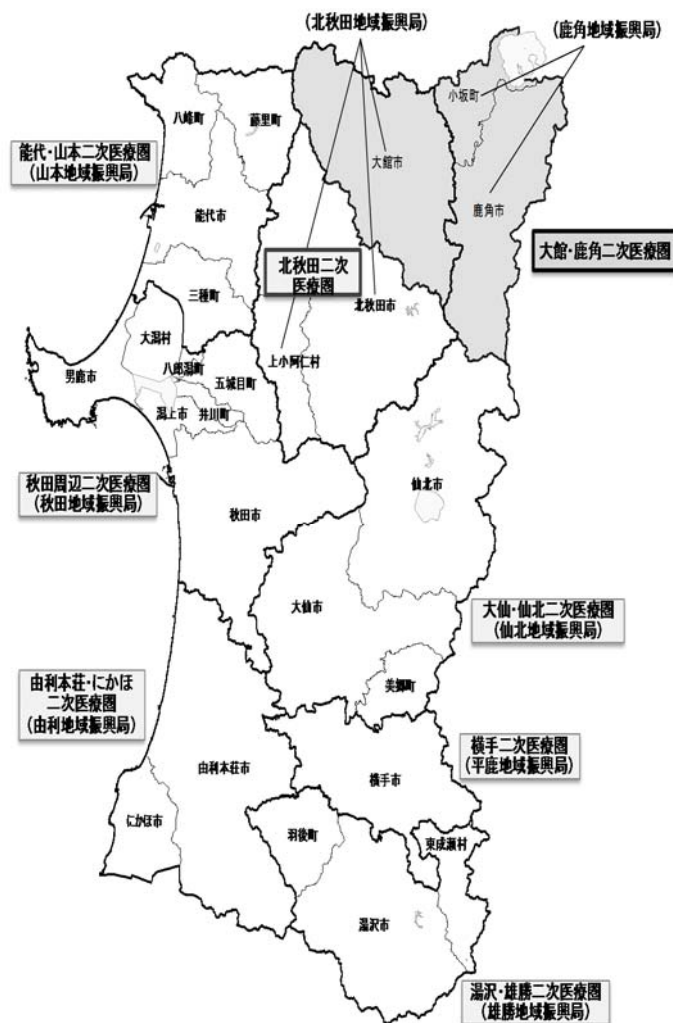
特に医療面では、大館・鹿角二次医療圏のみならず、県北地域の中核的病院である市立総合病院を有しています。総合病院では救急医療や周産期医療も含めた一般急性期病院としての機能の充実を目指すとともに、地域包括ケア病棟を活用することにより急性期を過ぎてモリハビリや療養が必要な高齢者等患者への在宅復帰に向けた医療の提供にも取り組みます。この中核的病院をはじめ、医療、介護、地域の連携により高齢者等が切れ目なくサービスを受けられる支援体制の整備、強化に努めていきます。また、この他、秋田看護福祉大学などで看護、福祉の人材育成を行っている他、ニプロなど医療系企業も立地しており、本市の医療・福祉の集積は「安心して健康的な活動・生活ができる環境」を支える強みと言えます。

また、有効求人倍率は県内一の高さで雇用の場が豊富であるほか、小・中学生の高い学力も市民の誇りとなっています。

大館版CCRCとは、大館市の地域活性化・定住人口増加に向けて、高齢者に限らない多世代の移住促進を主な目的に、安心して健康的な活動・生活ができる環境づくりを目指すものです。

これは、子ども、若者、現役世代、高齢者それぞれの年代を通じて暮らしやすいまちをつくることに他なりません。

秋田県の二次医療圏および地域振興局の所管市町村区分



また、本市は、恵まれた自然、農産資源、伝統工芸など四季を通じた生活の豊かさが感じられるまちでもあります。

地元の農産物は安価で美味しく、また、きりたんぼ、比内地鶏など豊かな食文化があります。また、市内27ヶ所と温泉が身近にあり、また、鮎・イワナなどの溪流釣り、山菜とり、県立自然公園でのトレッキングなど四季を通じて自然を楽しむことができます。

特に田代、大館、比内という市内3地域で、それぞれに個性豊かな文化、伝統、自然を有しており、それが本市全体としての「暮らしぶり」の豊かさとなっています。

<市内3地域の地域資源>

区分	歴史・文化資源	自然・伝統資源	食・イベント・体験・スポーツレクリエーション
大館地域	<ul style="list-style-type: none"> ・忠犬八公（秋田犬） ・アッコ市 ・大館囃子 ・大館神明社祭典 ・大館八幡神社神殿 ・鳥潟会館 ・北鹿ハリストス正教会聖堂 ・桜櫓館 ・松峰山信仰遺跡群 	<ul style="list-style-type: none"> ・大館曲げわっぱ ・桶・樽 ・芝谷地湿原植物群落 ・長走風穴高山植物群落 ・矢立遊歩道 ・石田ローズガーデン ・出川の櫓 	<ul style="list-style-type: none"> ・大館桜まつり ・きりたんぼ鍋（本場大館きりたんぼまつり） ・大文字まつり ・肉の博覧会 ・山の芋 ・大館小坂鉄道レールバイク ・曲げわっぱづくり体験 ・きりたんぼづくり体験 ・大館樹海ドーム ・大館樹海体育館 ・高館テニスコート ・長根山運動公園
比内地域	<ul style="list-style-type: none"> ・ジャジャシコ祭り ・中野七夕 ・独鈷囃子 ・山コチンチコ ・大日神社 ・長岐邸武家門 	<ul style="list-style-type: none"> ・竜ヶ森 ・達子森 	<ul style="list-style-type: none"> ・比内地鶏（比内とりの市） ・とんぶり ・ホップ ・葉タバコ ・達子森公園
田代地域	<ul style="list-style-type: none"> ・代野番楽 ・蛭沢獅子踊り ・山田獅子踊り 	<ul style="list-style-type: none"> ・白神山系田代岳（県立自然公園） ・御神木の櫓、イチイ 	<ul style="list-style-type: none"> ・根曲りたけのこ（田代名産たけのこ祭り） ・アユ（大鮎の里ふるさとまつり） ・五色湖まつり ・田代スポーツ公園



こうした地域資源、都市機能の充実に加え、空路・鉄路・陸路の利便性が高いことから、観光・交流の拠点ともなっています。また、平成28年に北秋田市・小坂町との連携により設立した地域連携DMO「(一社)秋田犬ツーリズム」によりインバウンド誘客にも取り組んでいきます。

こうした“大館暮らしの魅力”は多世代の移住促進も目指す大館版CCRCの根幹をなすものです。そこで、大館市総合戦略「未来創造都市」の実現に向けた、大館版CCRCのコンセプトを次のようにします。

大館版CCRCは、“**大館暮らしの魅力**”によって **若年層を含む幅広い世代の健康長寿・生涯活躍を実現し、定住促進を目指す**もの。

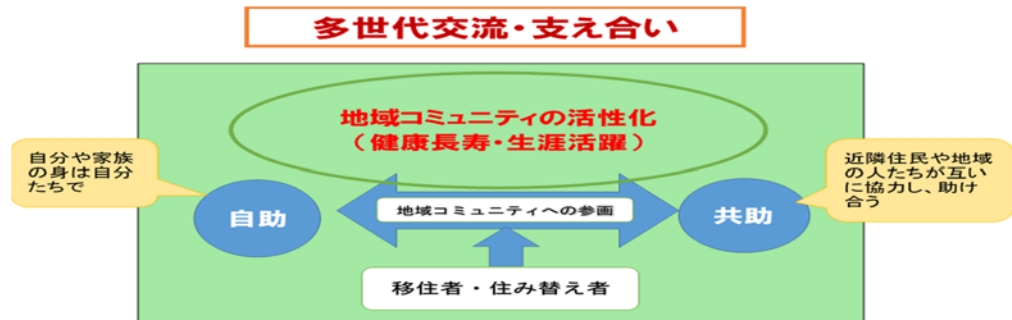
“大館暮らしの魅力”の特徴から、大館版CCRCでは以下3点を重要な要素として取り組みます。

① 大館圏域都市圏の中心拠点としての充実した都市機能

- 県北の拠点都市として充実した都市機能により、医療をはじめとする生活や就業等を支えます。
- 大館版CCRC実現に向けて、市民や地元事業者の活躍によって、更なる機能充実を図ります。
 - ・ 県北部医療の中心
 - ・ 経済産業・都市サービス、雇用・就業の場の中心
 - ・ 交流、観光の中心
 - ・ 文化、市民活動の中心

② 多世代交流・支え合い

- 高齢者にとどまらず、子育て世代も含む、多世代の交流・共生・支え合いを重視します。（多世代が支え合うことで、それぞれの健康長寿や生涯活躍実現を目指します。）
- こうした多世代交流・支え合い実現に向けて、地域コミュニティでの自助・共助を重視します。



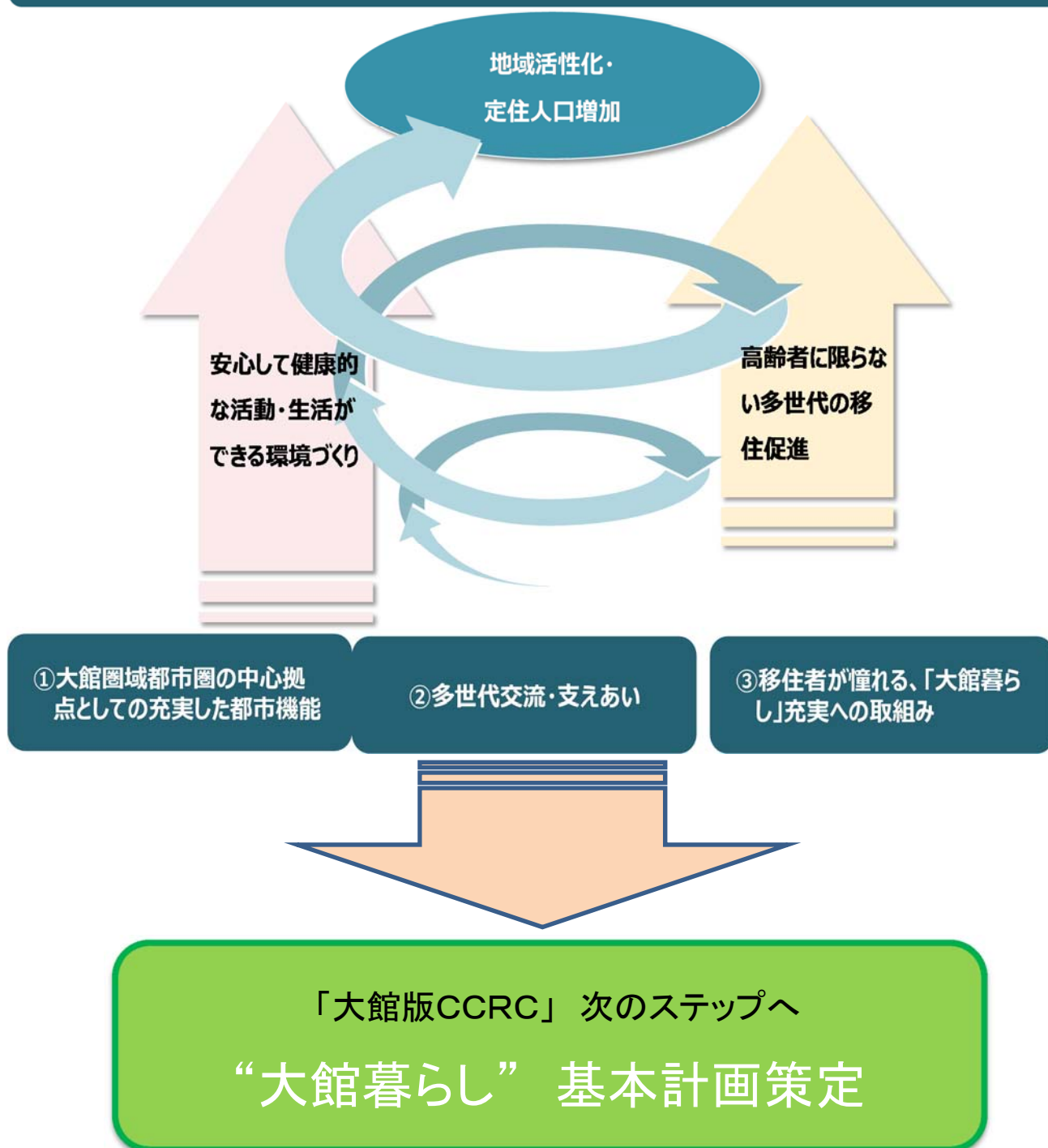
③ 移住者が憧れる、「大館暮らし」充実への取り組み

- 移住者の獲得に向けても、まずは市民自身が「大館暮らし」の魅力が実感できる暮らしぶり、日常生活の充実を重視します。（移住者が憧れるような、「大館暮らし」の実現を目指します）
- 移住者にも「大館暮らし」を理解、体感してもらえ、お試し居住や長期滞在、二地域居住などソフトプログラムメニューを充実します。（移住者に特別な待遇や特典を与えるのではなく、大館を好きになってもらい、共に「大館暮らし」をつくり、次代に伝える仲間として受け入れます）

<大館版CCRC整備構想のコンセプト>

大館版CCRCは、①大館圏域都市圏の中心拠点としての充実した都市機能、②多世代交流・支え合い、③移住者が憧れる、「大館暮らし」充実への取り組みを3つの重点として、“大館暮らしの魅力”によって若年層を含む幅広い世代の健康長寿・生涯活躍を実現し、定住促進を目指すものです。

大館暮らしの魅力によって若年層を含む幅広い世代の健康長寿・生涯活躍を実現し、定住促進を目指す



(2) 大館版CCRCで目指す姿

① 国の「生涯活躍のまち」構想に求められる要件への適用として

「大館版CCRC」では、下記の中高齢者が安心して健康に活躍できる環境を確保するとともに、多世代の移住者を受け入れ、市民も対象として生涯活躍・健康長寿の実現を目指します。

※ 「入居者」とは「生涯活躍のまち」の暮らしに賛同する移住者や住み替え者として想定

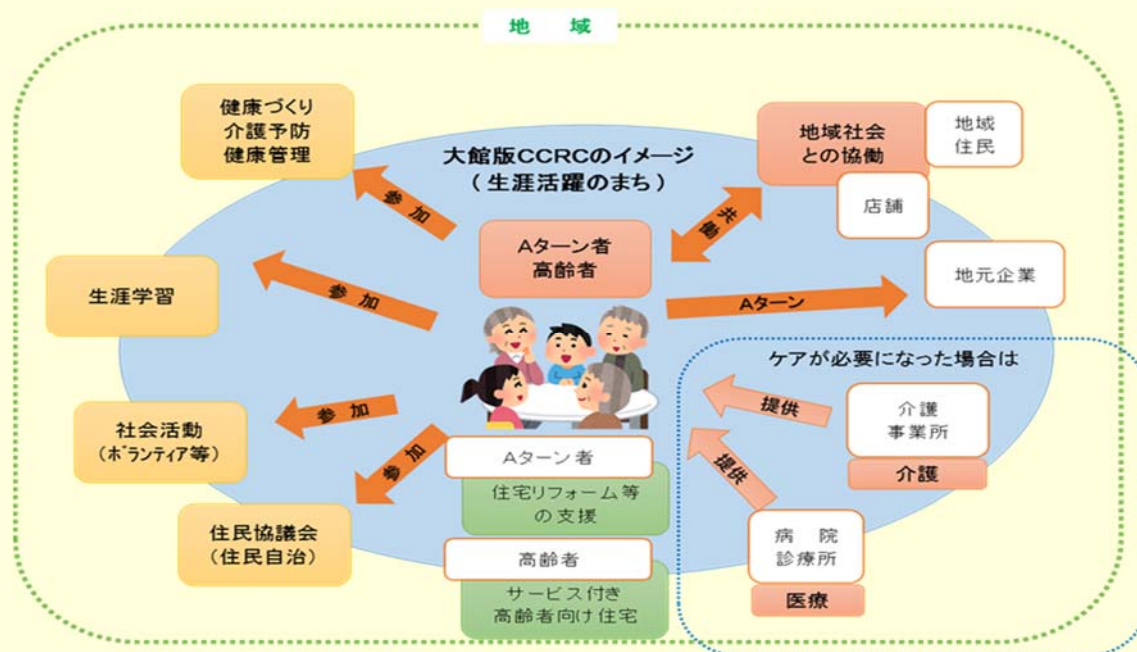
項目	求められる要件	市の地域特性・ニーズに応じた設定
入居者について	<ul style="list-style-type: none"> 入居者は健康な段階からの入居。 入居者年齢は、地域での活躍を念頭に、早めの住み替え。(50代以上を中心に) 	<ul style="list-style-type: none"> 「東京圏等からの移住」と「近隣地域からの住み替え」を想定し、大館暮らしの魅力を享受できるライフスタイルの実現。 多世代を対象としつつ、中高年齢者層においても地域での活躍を念頭に早めの住み替え、移住の促進。
立地・居住環境	<ul style="list-style-type: none"> 高齢者が地域社会に溶け込み、地域住民とともに多世代と交流・協働できる環境・拠点の整備。 地域と連携し、見守り等を行う環境整備により、高齢者が健康な時から人生の最終段階まで安心して自立した生活が送れるような居住空間。 日常生活・ケア・地域交流など生活全般の管理・調整・プログラム開発を担う「運営推進機能」を支える専門人材(コーディネーター)の配置。 	<ul style="list-style-type: none"> 都市部、田園地域双方を対象に、広く市内で展開。 地域全体を対象とする「タウン型」としての展開を念頭に、重点地区として「エリア型」の取り組み促進。 大館暮らしの魅力向上に向け、様々な地域資源を活用。 空き家の有効活用等による、低コスト住宅の供給。 市立総合病院と地域包括ケアシステムとの相互連携。

項目	求められる要件	市の地域特性・ニーズに応じた設定
サービスの提供	<ul style="list-style-type: none"> ・ 移住を希望する人々に対して、情報提供・事前相談・意見聴取・マッチングなどの支援。 ・ 元気な高齢者が「活躍」することを念頭に置いたプログラムづくり、ならびに入居者のスキル・ポテンシャルを活かせるような地域資源とのマッチング。 ・ 行政・医療機関・介護事業者等と連携した「継続的なケア」の体制構築。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 空き家バンク制度の他、住み替え、移住の支援。 ・ 生涯現役促進地域連携事業などを活かした、高齢者等の活躍の場設置。
事業運営	<ul style="list-style-type: none"> ・ 入居者自身がコミュニティの形成・運営に参画するという視点に配慮した事業運営。 ・ 入居者や地域関係者が事業運営・健康レベルなどを的確にチェックできるような仕組み。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 産官学民の多様な事業主体による「生涯活躍のまち」事業への取り組み。 ・ 民間の担い手の育成、発掘への取り組み。 ・ 移住者をはじめ、市民が安心して暮らせるよう、大館版 C C R C の事業においては互助・共助の仕組みや公的な仕組みとも連携した、民間によるビジネスの展開。 ・ 中長期的に多世代が交流するコミュニティを維持するため、コミュニティの人口構成を適切に維持する仕組みづくり。（特に、高齢化の進展する地域等での多世代共生）

② 大館版CCRCの展開イメージ

大館市内では、前記①の要件を満たしつつ、地域の特性を活かした「農山村」「まちなか」の2つのタイプにより、あらゆる世代が「大館暮らしの魅力」を享受できる大館版CCRCを展開します。

【「大館暮らしの魅力」に基づき、多世代共生で実現する大館版CCRCのイメージ】



生涯を通じてあらゆる世代で享受できる “大館暮らしの魅力”

- ・医療・介護の安心
- ・小・中学生の高い学力
- ・豊富な雇用の場
- ・豊かな食文化、産品（きりたんぼ、比内地鶏、山菜、アユ・イワナ）
- ・「曲げわっぱ」、「桶・樽」などの伝統工芸
- ・秋田犬、ペットとの暮らし
- ・四季を通じて自然を楽しむ暮らし（溪流釣り、山菜とり）等

【大館市内で展開する2つのタイプ】

① 農山村タイプ

- ・ その地域で暮らし続けたいという住民の意向を踏まえ、住民のニーズに対応する「自助、共助、公助」のサービス実現により、地域住民の在宅での健康長寿・生涯活躍を目指します。

② まちなかタイプ

- ・ 歩いていける範囲での多様な都市的利便、学びや就労機会により、アクティブシニアとしての充実した生活の実現を図ります。
- ・ 医療機関や都市的利便との近接を核として、中山間地からの住み替えも想定されます。

<2つのタイプの特徴>

地域包括ケアシステム構築など市域全体での「生涯活躍のまち」への取り組みを前提として、農山村、まちなかそれぞれの暮らしは以下のような特徴を目指します。

項目	① 農山村タイプ	② まちなかタイプ
主な特徴	<ul style="list-style-type: none"> その地域で暮らし続けたいという住民の意向を踏まえ、住民のニーズに対応する「自助、共助、公助」のサービス実現により、地域住民の在宅での健康長寿・生涯活躍を目指します。 上記については、都市部や近郊でも考えられます。 日常的な通院や診療が必要な交通弱者等のため、ICT等を活用した在宅医療を目指します。 	<ul style="list-style-type: none"> 歩いていける範囲での多様な都市的利便、学びや就労機会により、アクティブシニアとしての充実した生活の実現を図ります。 一方、医療機関や都市的利便との近接を核として、安心やコンパクトな暮らしを求める高齢者等が近隣市町村や市内の郊外・縁辺・山間部から住み替えることも想定されます。 地域住民の互助の他、多様な民間サービスも期待できます。地元の民間参画を促し、雇用拡大や地元経済の活発化を図ります。
移住者の受け入れ	<ul style="list-style-type: none"> その地域の暮らしぶりに賛同する移住者を受け入れていきます。移住に至る以前に、その地域の暮らしやコミュニティを理解し、馴染んでおくことが望まれます。（受け入れ促進には、その地域ならではの暮らし（生活文化、コミュニティ）の魅力づくりが重要になります） 住民の世代構成を考慮すると、若い年代を含む多世代の移住者を受け入れることが望まれます。（若い年代ほど仕事・就労機会が必要であり、農林業等の後継の他、観光その他、地域にとっての新たな仕事へのチャレンジも考えられます） 	<ul style="list-style-type: none"> 日常的には都市的な生活利便が得られる環境の下に、農山村も含む「大館暮らし」を享受する移住者が想定されます（受け入れ促進には、生活利便、安心・安全の向上、就労・余暇等の選択の多様性が重要になります） 社会参加意向の高い高齢者にとっては、まちなかに暮らす子育て世代や要支援者のサポート役を担うことも考えられます。多世代の支え合いが期待されます。 人口は多くても、人づきあいは農山村集落に比べると希薄な面もあるため、近隣や各種のコミュニティでの移住者の受け入れが重要です。
居住環境など	<ul style="list-style-type: none"> 人口減少で地区内に空き家の増加も懸念されます。互いに近接して住まうためには、空き家も活用して地区内での住み替えや独居者等の共同生活（シェアハウス）も考えられます。 空き家活用等で住宅コストを抑えるだけでなく、日々の生活コストも互助や地産地消で賄っていくこともできます。 地区内にお互いが住み続けていくために、準備に猶予のある10～15年後の暮らしを住民相互で話し合うことから始めることも有効です。 	<ul style="list-style-type: none"> まちなかならではの高付加価値な住宅と共に、自立できなくなった高齢者や若年・子育て世代も住める低廉な住宅提供も求められます。 住まいに先んじて、市内外から人が集まるまちなかならでは、高齢者、子どもなど多世代が交流・共生できる環境づくりが重要です。 中心市街地の機能更新にあわせ、今後の高齢化進展も踏まえて、多世代共生の機能を導入していくことが考えられます。

3. 大館版CCRC実現への課題と取り組み方策

大館版CCRCは、“大館暮らしの魅力”によって若年層を含む幅広い世代の健康長寿・生涯活躍を実現し、定住促進を目指すものです。

その実現に向けて、子育て世代を含む移住者獲得も意識しつつ、以下を重視して取り組みを進めていきます。

(1) 市民の「健康長寿・生涯活躍」に向け、全市的な取り組み推進

移住者を獲得するためにも、まずは広く市民が「健康長寿・生涯活躍」を実現していくことが必要です。大館市では中高年齢者だけでなく、子育て世代を含む、多世代市民の健康増進と活躍を目指していますが、異なる世代が交流し、互いに支え合うことで共に元気になることも期待できます。

移住者に誇れるよう、高齢者や子育て世代の参画に重点を置きつつ、多世代市民の「健康長寿・生涯活躍」環境整備に取り組んでいきます。

【大館版CCRC実現に向けた、多世代を対象とした主な取り組み】

若者世代	中高年齢者世代	世代共通
<ul style="list-style-type: none"> ・ 子育て世代包括支援センター事業 ・ 保育料の軽減・助成 ・ 病児・病後児保育の充実 ・ 奨学金等返還支援助成金事業 ・ 福祉医療費給付助成事業（中学生まで） ・ 出産祝い地域内商品券贈呈事業 ・ ふるさとキャリア教育 ・ 企業内保育施設整備事業 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 生涯現役促進地域連携事業 ・ シルバー人材センター事業 ・ 高齢者等定額フリーパス券支援事業 ・ はりきゅうマッサージ施術費助成事業 ・ 高齢者クラブ（地域サロン） ・ 生きがい健康づくり事業 ・ 認知症予防介護教室 ・ 市民菜園事業 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 休日夜間急患センター事業 ・ 健康ポイント事業 ・ 市民版「ふるさとキャリア教育」事業 ・ 空き公共施設等利活用促進助成制度 ・ 「大館びとの会」（移住者・市民交流会） ・ 定住奨励金給付事業 ・ 住宅リフォーム支援事業（子育て・三世帯同居など） ・ 空き家バンク制度事業 ・ ペットにやさしいまち（ペットと泊まれる宿泊施設整備など） ・ 歴史まちづくり事業（歴史的風致維持向上計画）

(2) 重点エリアにおける事業推進・協働体制の構築

上記のような全市的な取り組みを展開していくのとあわせて、重点エリアを対象に大館版CCRC実現に向けて取り組んでいきます。そのため、重点エリアの住民の健康長寿・生涯活躍の実現に向けた官民協働の推進体制を構築します。その際、市外からの移住受入れあるいは市内住み替えの仕組みとも連携を図ります。

(3) 民間事業主体の確保、育成

前項の(1)市民の「健康長寿・生涯活躍」に向け、全市的な取り組み推進、(2)重点エリアにおける事業推進・協働体制の構築への取り組みを進めるにあたって、市民の「健康長寿・生涯活躍」の実現に向けて、取り組む民間事業主体を確保、育成する必要があります。

例えば、(2)における重点エリアでの取り組みを具体的に検討する中で、それぞれのソフトプログラムや住宅の整備・管理運営などの担い手について、地区住民の互助、関連団体、地元事業者等から確保を図ります。

「生涯活躍のまち」づくりの取り組み自体を、市民あるいは事業所の新たな活躍の場とすることを目指します。

4. 大館版CCRC整備構想策定に向けたこれまでの動き

- H28. 11. 15 大館版 CCRC 整備庁内検討委員会設置要綱 制定
大館版 CCRC 整備推進協議会設置要綱 制定
- H28. 11. 30 第1回 庁内検討委員会 (委員長：副市長 委員：7名)
- H28. 12. 22 第1回 推進協議会 (会長：小笠原吉張 (秋田職業能力開発短大) 委員：7名)
- H29. 1. 24 第1回 庁内検討委員会作業部会 (介護・医療部会、移住促進部会 合同開催)
- H29. 2. 21 第2回 庁内検討委員会
- H29. 2. 27 第2回 推進協議会
- H29. 3. 23 第3回 庁内検討委員会
- H29. 3. 27 第3回 推進協議会

大館版CCRC整備推進協議会 委員

No.	所属	氏名	協議会	備考
1	大館商工会議所 副会頭	石川 崇	副会長	産業
2	大館北秋商工会 理事	米澤 正貴		産業
3	大館公共職業安定所 所長	花田 幸隆		行政
4	学校法人ノースアジア大学 理事	保科 幸二		教育
5	秋田職業能力開発短期大学校 住居環境科 教授	小笠原 吉張	会長	教育
6	一般社団法人大館北秋田医師会 副会長	小松 良彦		医療
7	社会福祉法人大館市社会福祉協議会 副会長	兜森 和夫		福祉
8	大館市社会福祉法人連絡会	三浦 功達		福祉

大館版CCRC整備庁内検討委員会 委員

所 属	氏 名	備 考
副市長	名村 伸一	委員長
総務部長	北林 武彦	
市民部長	成田 政則	
福祉部長	田村 正行	
産業部長	一関 雅幸	
建設部長	佐藤 伸雄	
教育次長	安保 透	
総合病院事務局長	斎藤 進	

大館版CCRC整備庁内検討委員会 作業部会

所 属	職 名	氏 名	備 考
＜介護・医療部会＞			
福祉部長寿課	課 長	安部 正和	介護・医療部会長
福祉部健康課	課 長	小林 朋子	
市民部保険課	課 長	小林 真奈美	
市立総合病院経営企画課	課 長	石戸谷 邦夫	
＜移住促進部会＞			
産業部移住交流課	課 長	佐藤 和浩	移住促進部会長
福祉部子ども課	課 長	成田 学	
産業部商工課	課 長	長谷部 明博	
建設部都市計画課	課 長	斉藤 浩悦	
教育委員会生涯学習課	課 長	一関 留美子	
教育委員会教育研究所	所 長	貝森 逸子	

大館版CCRC整備構想

平成29年3月

発行：大館市 総務部企画調整課 産業部移住交流課

〒017-8555 秋田県大館市字中城 20 番地

TEL：0186-43-7027 FAX：0186-49-1198